

助成対象活動報告シート

団体名： かんでら monzen 亭

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

令和4年11月12日(土)、13日(日)の両日の10時から16時までの間、県道緑瑞穂線、市道前浜通第1号線、市道西之門第3号線を車両通行止めとし、県道緑瑞穂線は盆踊りなどのパフォーマンス会場、市道前浜通1号線はマルシェ会場として活用し、歩行者数やウォーカブルタウンに向けた道路の活用への意識調査を行った。



パフォーマンス会場となった県道緑瑞穂線



マルシェ会場となった市道前浜通1号線

2 活動の成果および目標達成度合い

- ・一方通行規制については同意が得られなかったが、駅前通りの通行止めについては初めて地元の同意を得て実施することができた。その過程で、地元への説明をどのように進めていったらよいかを学習することができた。
- ・公道上でのマルシェには、初開催にも関わらず2日間で24店舗が出店してくれたことで、道路空間のマルシェ利用の需要の高さを改めて認識した。
- ・通行止めによりいつも見慣れた道路空間からクルマを排除するだけで、街の雰囲気が大きく変わり、人流調査の結果では昨年同時期と比べ雨の日で2倍以上、晴れの日で7倍以上に増えた。
- ・芝生スペース、植栽、ベンチを配置することで、通行する人たちの表情も、公園を散策しているようなものへと変化した。
- ・アンケート結果から、89.1%の人が好意的に受け止めてくれたことがわかった。
- ・一方通行によってクルマの通行機能を最低限保持したまま、歩行者の利便性を高めたときに街の雰囲気がどこまで変化するかを実験することができなかった。

3 活動により見えた課題

- ・パフォーマンス会場とマルシェ会場とを区分しての利用形態としたが、マルシェ会場については常時賑わいのある空間づくりに成功したが、パフォーマンス会場については、パフォーマンスがない時間帯において歩いて楽しい空間を作ることができなかった。
- ・1回目の地元説明での失敗を経て、2回目で通行止めへの町内会の理解を得ることができたが、個別にはクルマの利便性が犠牲にされたことへの不満や事前に通行止めを知らない人たちも多く、周知方法やクルマの利便性とウォーカブルなまちとがバランスした着地点（範囲、頻度、時間帯、規制方法など）をどこに置けば、賛同者を最大化できるのかが課題として残った。

4 今後の活動等の展望

- ・今回前例を作ることによって、ウォーカブルタウンのイメージを多くの人たちと共有することができたため、今後の活動を進める上での合意形成が容易になった。
- ・地元町内会との関係が深まったことで、手続き的にどのように進めたらよいかを体得することができた。
- ・ストリートピアノの設置やミニ図書館とセットになった芝生スペース、植栽やベンチの配置で街の雰囲気が大きく変わることがわかったことから、通行止めにしなくても利用できる道路空間、例えば植栽帯やポケットスペースを有効に活用することでも同様の効果が得られる可能性を見出すことができた。
- ・関係機関からは、民間主体による社会実験という新しい試みへの理解を得ることができたため、今後も支援が得られやすい環境を構築することができた。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。